

平成 9 年 11 月 招 集
平成 9 年 12 月 招 集

第 1 回 館 山 市 議 会 臨 時 会 会 議 録
第 2 回 館 山 市 議 会 臨 時 会 会 議 録
第 4 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

館 山 市 議 会

目 次

第 1 回 臨 時 会

(11月26日)

開 会	2
議長の報告	2
議案の配付	2
会議録署名議員の指名	2
会期の決定	2
議案第53号	2
説明	2
神田 守隆君の質疑、当局の応答	3
辻田 実君の質疑、当局の応答	5
三上 英男君の質疑、当局の応答	11
鈴木 順子君の質疑、当局の応答	12
委員会付託の省略	15
神田 守隆君の討論	16
三上 英男君の討論	16
採決	16
閉 会	17
本日の会議に付した事件	17

第 2 回 臨 時 会

(12月2日)

開 会	20
議長の報告	20
議案の配付	20
会議録署名議員の指名	20
会期の決定	20
議案第54号	20
説明	20
神田 守隆君の質疑、当局の応答	21

三上 英男君の質疑、当局の応答	2 5
辻田 実君の質疑、当局の応答	2 6
鈴木 順子君の質疑、当局の応答	3 1
委員会付託の省略	3 3
神田 守隆君の討論	3 3
三上 英男君の討論	3 4
鈴木 順子君の討論	3 4
採決	3 5
閉 会	3 5
本日の会議に付した事件	3 5

第 4 回 定 例 会

◎第1号（12月10日）

開 会	3 8
議長の報告	3 8
議案の配付	3 8
会議録署名議員の指名	3 9
会期の決定	3 9
会議日程の決定	3 9
議案第55号～議案第62号（提案理由の説明）	3 9
延 会	4 1
本日の会議に付した事件	4 2

◎第2号（12月12日）

開 議	4 4
行政一般通告質問	4 4
脇田 安保君の質問、当局の応答	4 4
辻田 実君の質問、当局の応答	5 6
神田 守隆君の質問、当局の応答	7 2
三上 英男君の質問、当局の応答	8 5
鈴木 順子君の質問、当局の応答	9 2
散 会	1 0 2

本日の会議に付した事件	103
-------------------	-----

◎第3号（12月16日）

開 議	106
議案第55号～議案第60号	106
神田 守隆君の質疑、当局の応答	106
委員会付託	112
議案第61号、議案第62号	112
神田 守隆君の質疑、当局の応答	112
委員会付託	114
延 会	114
本日の会議に付した事件	114

◎第4号（12月22日）

開 議	116
議案の配付	116
議案第55号～議案第58号、議案第61号	117
総務委員会委員長報告	117
採決	118
議案第59号、議案第60号、議案第62号	119
建設経済委員会委員長報告	119
採決	120
請願第7号	121
文教民生委員会委員長報告	121
採決	122
継続審査について（請願第15号、請願第21号）	122
議案第63号～議案第67号	123
説明	123
委員会付託の省略	124
採決	124
議案第68号	124
説明	125

委員会付託の省略	125
採決	125
発議案第10号	126
説明	126
委員会付託の省略	126
採決	127
閉 会	127
本日の会議に付した事件	127

第 1 回 館山市議会臨時会会議録

1 平成9年11月26日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1番	辻 田 実	2番	本 橋 亮 一
3番	三 上 英 男	4番	小 幡 一 宏
5番	忍 足 利 彦	6番	鈴 木 順 子
7番	齊 藤 実	8番	増 田 基 彦
9番	島 田 保	10番	宮 沢 治 海
12番	植 木 馨	13番	脇 田 安 保
14番	永 井 龍 平	15番	山 崎 雅 己
16番	鈴 木 忠 夫	17番	岩 村 勝 弘
18番	日 下 君 敏	19番	川 名 正 二
20番	神 田 守 隆	21番	山 中 金 治 郎
22番	榎 本 春 光	23番	石 井 昌 治
24番	福 原 勤	25番	飯 田 義 男

1 欠席議員 1名

11番 秋 山 光 章

1 出席説明員

市 長	庄 司 厚	助 役	小 幡 清 之
収 入 役	永 野 修	企 画 部 長	寺 嶋 清
総 務 部 長	鈴 木 完 二	経 済 環 境 部 長	小 沼 晃
建 設 部 長	鈴 木 信 一		

1 出席事務局職員

事 務 局 長	兵 藤 恭 一	事 務 局 長 補 佐	鈴 木 哲
書 記	四ノ宮 朗	書 記	鈴 木 達 也
書 記	加 藤 浩 一	書 記	松 浮 郁 夏

1 議事日程

平成9年11月26日午前10時開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 議案第53号 平成9年度館山市一般会計補正予算(第3号)

開 会 午前10時02分

◎議長（石井昌治君） 本日の出席議員数24名、これより平成9年第1回市議会臨時会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議長の報告

◎議長（石井昌治君） 本臨時会議案審議のため、地方自治法第121条の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がありましたので、御了承願います。

議案の配付

◎議長（石井昌治君） ただいま市長から議案並びに説明書の送付がありました。

議案並びに説明書を配付いたさせます。

配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

◎議長（石井昌治君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

2番議員本橋亮一君、24番議員福原 勤君、以上両名を指名いたします。

会期の決定

◎議長（石井昌治君） 日程第2、会期の決定を行います。

本臨時会の会期につき、議会運営委員会の意見は本日1日ということであります。

お諮りいたします。会期を本日1日と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（石井昌治君） 御異議なしと認めます。よって、会期は本日1日と決定いたしました。

議案の上程

◎議長（石井昌治君） 日程第3、議案第53号平成9年度館山市一般会計補正予算（第3号）を議題といたします。

議案の朗読は省略いたします。

議案の内容説明

◎議長（石井昌治君） 議案の説明を求めます。

市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) 本日ここに第1回市議会臨時会を招集いたしましたところ、議員の皆様方におかれましては御多用の折、御出席を賜り、まことにありがとうございます。

市民の長年の念願でありました館山駅橋上駅舎等建設事業につきまして、積極的に取り組んでまいりましたが、このたび東日本旅客鉄道株式会社へ委託した詳細設計が完了いたしました。施設は鉄骨づくり2階建て、延べ床面積 1,927平方メートルでございます。その内訳は、館山市分の施設自由通路等 1,086平方メートル並びに東日本旅客鉄道株式会社の駅施設 841平方メートルでございます。これに伴います工事費は17億 7,085万円、うち16億 557万円が館山市の負担となるものでございます。この結果、当初予算に対しまして、1億 5,567万円の不足が生ずるとともに、年度割額の変更が必要でございますので、補正予算につきまして御審議をお願いする次第でございます。

議案第53号平成9年度館山市一般会計補正予算(第3号)でございますが、歳入歳出予算の補正といたしまして、歳入歳出それぞれ5億 2,223万 2,000円を減額し、総額 154億 5,946万 5,000円としようとするものでございます。歳出といたしましては、土木費で館山駅橋上駅舎等建設工事委託料5億 2,223万 2,000円の減、これは全体工事費は増額となりましたが、年度割額の変更に伴い平成9年度分の工事費が減額になったことによるものでございます。

また、これに伴い歳入におきまして、財政調整基金繰入金3億 573万 2,000円、市債2億 1,650万円を減額するとともに、債務負担行為並びに地方債の補正につきまして、あわせてお願いするものでございます。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

以上でございます。

◎議長(石井昌治君) 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長(石井昌治君) これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。

20番神田君。

◎20番(神田守隆君) 駅舎の改築ということで、今回補正が組まれているわけですが、ちょっとお尋ねしたい点は、工事全体としては17億 7,000万円余の工事費になる。そのうちJRが負担するのは1億 6,500万円余で、そのほかは市で負担をするということなんですが、大変JRの負担が少ないんじゃないか、逆に言えば市の負担が大変多いんじゃないかなと、この辺のところをもう少し御説明を願いたいということなんですが、平成7年度に市がつくりました概略設

計ですと、本工事分についてだけでありますけれども、16億 5,000万円、そして駅の施設で4億 6,700万円、こういう数字を具体的に出しているわけです。駅の施設ですから、これは当然ＪＲが負担すべきものだというふうに理解をしてきたわけであります。

また、平成５年度に我孫子市の布佐駅では、15億 1,000万円の工事費に対してＪＲが3億 600万円負担をしておると、こういうようなことで、直ちにこれとイコールというわけにもいきませんでしょうけれども、館山駅のＪＲの負担の1億 6,500万円というのは、これまでの経緯、あるいは他の例等考えてみるとどうも納得できないなという感じをするものですから、その辺についてどうしてそうなっておるのか、御説明をいただきたいと思います。

◎議長（石井昌治君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） ＪＲ負担が少ないではないかというような御質問でございますが、現在県内での事例を見ますと、工事中の駅舎が1件、それから詳細設計が終了した事例が2駅、館山駅はその1つでございます。他の2駅とも比較いたしましても、ＪＲ負担につきましてはしていないというようなことを聞いておりますし、それからこの駅そのものにつきましては、その性格、あるいは所在する市町村での位置づけだとか、あるいは利用者等の違いによりましてさまざまございまして、容易に比較することはできません。また、信号施設だとかあるいは電車線の支障移転の多寡によりまして、事業費の比較はできないところでございます。

それから、概略設計のときに1億 1,246万ということでございまして、今回の詳細設計では1億 6,528万ということで、ＪＲ負担は増となっているというのが現状でございます。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 20番神田君。

◎20番（神田守隆君） いわゆるこの駅の改築全体という中では自由通路、それから駅舎という部分に大きく言って分けられるのではないかと。自由通路部分については、これは非常に公益的な、公共的な性格を持っていることについては当然だと思うんですが、いわゆる駅舎の部分については、これはＪＲ東日本旅客鉄道株式会社、ＪＲが当然負担すべき筋のものであると思うんです。今のお話ですと、県内の他市との比較等余り意味がないんだというお話をされた中で、その地元市の駅舎改築についての受けとめ方とか、その条件によって違うんだというお話だったんですが、ということはこの17億 7,000万円のうちいわゆる駅舎部分としてかかる部分というのは、やはり3億ないし4億というような具体的な数字があって、そのうちＪＲが負担しますよというのが1億 6,500万円だと。その駅舎の部分については、市民負担によって行う部分があるんだと、こういう理解の仕方になるんでしょうか。その辺はどうなんですか。

私は、ＪＲの部分本来負担すべきものだと思うわけなんです、そこでさらに市民負担が、ＪＲが本来負担すべき分を肩がわりしているんだということであるとすれば、その部分がどれだけ

あるというふうに認識しておるか、お聞かせいただきたい。

◎議長（石井昌治君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 館山駅の橋上駅舎建設事業の事業費につきましては、建設事業費として先ほど御説明したとおり、17億 7,085万円でございます。そのうちの自由通路及びコミュニティ施設の建設費といたしまして8億 5,811万 4,000円、そしてまた自由通路の建設に伴う支障物の移転費用といたしまして2億 5,327万 1,000円、そして駅の施設分として6億 5,946万 5,000円ということでございますが、その6億 5,946万 5,000円のうちJRが負担するのは1億 6,528万ということになりまして、差し引き駅舎部分については4億 9,418万 5,000円、これがJR駅舎部分としての市の負担ということになるわけでございます。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 20番神田君。

◎20番（神田守隆君） そういたしますと、4億円から4億 9,000万円、それを5億円に近いお金を、いわばJRに無償提供と言っているんじゃないかと思うんですけども、大変大きな金額ではないかなと思うんです。その辺が私ども市民の立場から、果たして館山市の今の財政の状況と今後の財政の状況とを考えると、大変大きな今後の問題に持っている要素があらうかと思うんです。

そこで、この4億 9,000万円という、この負担について今後の財政運営等も大変心配するところで、起債等、これについて国あるいは県、こういうものからの助成なりあるいは交付税における措置、そういったものがあり得るのかあり得ないのか、全額これは市の単費負担と、こういうことで考えざるを得ないのかどうか、その辺についてどうお考えになりますか。

◎議長（石井昌治君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） この駅舎建設にかかわります経費でございますけれども、現在のところ市債を4億 5,000万円ほど予定しております。これにつきましては、地域総合整備事業債を充当する予定でございまして、その約45%から50%につきまして交付税措置がなされるというふうに予定しているところでございます。

◎議長（石井昌治君） 1番辻田議員。

◎1番（辻田 実君） 3点について御質問を申し上げたいと思います。

まず最初は、17億 7,000万円に補正をするということでございまして、その不足分1億 5,000万円を追加補正ということになるわけでございますけれども、これにつきましては現実の予算として15億何千万円の金があるわけでございますから、1割程度の補正をしなくても契約はできるんじゃないかというふうに思うわけでございますけれども、これにつきましては今までの経過からいきまして鉄道公団というんですか、公社ですか、何かそこに依頼するというところで

ざいますから、随意契約ということでこうなろうかと思うわけでございますけれども、最近その種の公団の経費が非常に高いということ、問題があると、そしてもっと一般競争入札で行えば相当安くなるというようなことでもって、農業の問題だとかいろんな問題でもって、そういう造反というのが起きて非常に安く上げたというようなことが報道されておまして、そういう方向に行くべきだという風潮があるんですけれども、この点についてはいかがにお考えになるのか。これは契約については、当然随意ということだから、こういう形でもって行われるんじゃないかと。これが、競争入札である場合だったら、限度額というんですか、これが17億幾ら近くかかるといっても、かなり値段が下がれば現状の予算の中でもって契約はできるというふうに思われるわけでございますけれども、その点はどうしてもって1億5,000万円を追加しなければ、契約というんですか、そういうものはできないということは、ちょっと不自然なような格好がするんですけれども、これらは一般入札、競争入札、随意契約と、こういう格好で出てくるのかどうなのか。そこら辺を含んでひとつわかりやすくお願いをいたしたいと思います。

それから、2番目には財政見通しでございますけれども、今質問ございましたように、かなり市の部分の負担が大き過ぎるわけでございますけれども、ほとんど市が出してしまうと、こういう格好になるわけでございますけれども、この見通しについてどのように考えておるのか。今の財政状況の中でもってかなり——これはいいとか悪いじゃないんです。かなりの負担がかかるんじゃないかと。そこら辺についてはどのぐらいかかるのか、経常収支率だとかそういう面にどのぐらいはね返るのか。そういう面でどういう財政運営の面から見ておるのかという点についてひとつ説明を願いたいと。

と同時に、今まで建設推進委員会というんですか、ここでもって財務委員会をつくって一般寄附を集めるということで、これが2億とか1億ということがささやかれておまして、私も当時委員会に入っておまして、そういう中でもって財務委員会等も発足いたしまして、市民の盛り上がりでもってやるという。それがある程度当初の計画の段階では、市民の寄附によるところの財政というものも入っておったんですけれども、その後これらの話が全く消えてしまったんですけれども、この財務委員会の活動と、そして財務委員会にお願いした一般寄附の問題が今後どのようにっていくのか。この点について現段階での状況について説明をしていただきたいと思いますのでございます。

それからもう一点は、管理でございますけれども、市の方の要するに持ち分というのが1,080平米ということでもって、それは市の所有というんですか、そういうことに、駅部分でない所有ということになると思うわけでございますけれども、これらについては、私はどうしてもわからないんですけれども、工事負担金として市のものだから、駅舎の部分じゃないから、市が金を出すということについては、私はこれは了解できるわけです。だけれども、過日いただいた説明

の建物の構造から見ていくと、市の部分と駅の部分がどこでどう区別しているのか、区別したら、とてもじゃないけれども駅が機能しないんじゃないか。もう早く言えば駅1つのものじゃないかというふうに思うわけですが、そうなってくると市の部分の修理だとか、それから清掃だとか、電気だとか、維持管理、こういうものはこういう割合でいくと相当のものが見込まなければいけないんじゃないかというふうに思うわけです。早く言えば、駅へ全部寄附しちゃう、駅でもって全部管理その他やるから、館山市は管理費は逃れるけれども、しかしこのままでいくと、こっちの管理費は今度持たなければいけないということになると、相当な目になるんじゃないかと。そこら辺については話し合いなり検討されておるのか。そして、そういう形でもって、駅舎以外の1,080平米のほとんど駅のうちの3分の2部分のものの今後の経費、維持管理費、こういうものがどのぐらい見込まれるのか、計算されておるのかどうか、この点について御説明いただけましたらひとつお願いいたします。

以上、3点について御質問申し上げます。

◎議長（石井昌治君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） まず、補正でございますが、これは市とJRの負担についての建設事業費17億7,085万円のうちJRが負担する額として1億6,528万余を差し引いた分、16億557万円を今回の補正をお願いするところでございまして、その後の業者選定ということでございますが、これは営業線近接工事というような特殊な言葉を使うわけなんです、JRに指名願いを提出している鉄道の特異業者——特異業者というのは電車が運行している中で工事を行うという特殊な状況の中での工事の施行ができる、またその実績がある業者ということでございますが、この鉄道特異業者からの見積もりを徴して決定をされるというふうに聞いております。

それから、今後の維持管理ということでございますが、公共施設でありますので、当然市で維持管理することになります。これは、管理方法につきましては、設置条例を制定して対応してまいります。それから、駅舎部分については、これは駅舎、JRが行うという形になろうかと思います。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） この駅舎建設に関係します財政支出につきまして、現在の財政状況の中での負担はいかがかという御質問でございます。確かに16億円を超えます財政負担は大きなものがございますが、市の主要事業といたしまして、財政調整基金等も含め長年にわたりその財政負担についても検討がされてきたものでございまして、この財政負担につきましては従前から見込まれている範囲内でございます。したがって、今後の財政運営は特に支障が生じないものと考えております。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 橋上駅舎建設促進協議会の財務部会についてのお尋ねでございますが、これは御承知のとおり市民挙げての駅の建設というようなことから、御寄附をお願いしていくという考え方の中でこういう組織ができたわけでございます。近々財務部会を開催していろいろと御協議をいただく予定となっております。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 1番議員辻田君。

◎1番（辻田 実君） 一応わかりました。

そして、関連いたしまして、財務部会で検討している予算について、今後検討するということですが、今後やはり寄附を集めるということなんでしょうか。それとも、そこらの点も集めないでこれでやってしまうということなのか、そこら辺について少し、明確にできるところはしておいてください。後でこれはもつれると思いますので。

そして、それと同時にそれに関連いたしまして、私も駅の周辺整備特別委員に入っておりますが、幾つかの駅等を視察したんですけれども、かなり地元の盛り上がりがあって、そして寄附なんかも相当のものが集まっているわけでございます。市原の五井駅等につきましても、企業から半分近く金が寄附されたとか、こういうのがあるわけなんですけれども、それは地元の意向が非常に盛り上がったということなんですけれども、巷間聞くところによると、当初この駅をつくる促進協ができる当時は非常に市民の盛り上がりもあって、相当億からの金を寄附が見込めるという状況があったんじゃないかというふうに私は判断しているわけでございます。しかしながら、現在はほとんどむしろなくなってしまって、逆——もう一銭も出さないというぐらいの何か開き直ったような声を、多くは聞きませんが、幾つか聞くわけです。それは、何か今後の市政に非常に大きなインパクトを与えていくんじゃないかという心配が、懸念がされるわけでございますけれども、この点をどのように考えておるかということでございます。

それから、その1つの原因になったのは、やっぱりどこの駅を見ていっても、つい二、三日前も私も滋賀県の方を視察したんですけれども、大津の駅にしても、長浜の駅にいたしましても、みんな特産品というんですか、何かそういう売店が出ているんです、駅には。そういうものが出ているので、そしてどこの駅も、岡谷などの場合はデパートの中に駅をつくるということで、そしてあときには、デパートのテナント料でもって市の方の持ち出しはほとんどなくて済みますよというようなことも聞いたこともありますし、極端なのはそうなんですけれども、館山の場合も駅の中に物産展示販売所、そういうようなものが持てるというような、また持ってもらいたいという意向がかなり強かったんじゃないかと。私もそういう者の一人でもって、何回かそういうショッピング等、他の議員等はデパートをつくってその中にやったらどうかという、こういうこ

とも提案があったんですけれども、そういうことを前提にしながら、特に地場産業の人たちは、あそこに物産会館にかわるような即売所がある程度見込めるんじゃないかという期待があったから、ある程度寄附も出そうという意向があったんだろうけれども、何か聞くところによると、また説明によりますと、一切販売行為はできないと、こういうことのようにございますが、そうなってくると、駅の建物に商人や産業界の人たちが期待しておったものが全く消されちゃったためにそういう市民の盛り上がり、また市民からの寄附というものが後退したんじゃないかと、このように考えられるわけでございますけれども、駅の中に販売所等が設けられないということはどういうことなのか。駅の方のことなのか。それがまた同時に響いているんじゃないかというふうに思うわけなんですけれども、その点どんなように受けとめられておるか、この2点について御説明をいただきたいと思います。

◎議長（石井昌治君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 寄附を集めるのか集めないのか、その辺はどうかというような、そういう御質問でございますが、この促進協議会の中に財務部会という専門部会が設置されましたのは、寄附をお願いをしていくということで設置されたわけでございまして、過去2回財務部会が開催をいたしておりますが、たまたま昨年ちょっと中断をしておったわけでございますが、寄附を集めないというような、そういう具体的なものはございません。近々開催いたします財務部会の中でいろいろとまた御意見等もあろうかと思いますが、現在のところはそういう段階でございます。

以上です。

◎議長（石井昌治君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 物産の販売というような御質問でございますが、考えておりますのは物産展示をできるスペースは設けてまいりたい、このように思っているわけでございます。その販売ということになりますと、なかなかJRさんとの協議の中では非常に難しいというようなことが言われております。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 1番議員辻田君。

◎1番（辻田 実君） わかりました。そこら辺ちょっと何かすっきりしないものがありますけれども、一応質問ですから結構でございます。

そこで2点、最後になりますけれども、質問したいわけでございますけれども、1点は、私は駅の中にいろんな郷土の物産を販売できる、こういう声がかなり強いんじゃないかと。館山の物産なんか、即売会の、協議会というのですか、会がありまして、十何軒というのがあるそうでございますけれども、そこ等は、当初駅の中にある程度そういうコーナーを設けてもらいたいと

いう陳情等、そういうのもあったようでございますし、私が議長やっている当時も、その代表が来て、ぜひ駅の中にお願ひしたいという要望というんですか、これも2回ぐらい受けておりまして、市長のところ行ってきたから、議会の方もひとつと、こういうようなことで、そういう検討もなされているようでございますと、こういう回答しておったわけでございますけれども、そういう意向はかなり強いのがあって、そういう人たちは、いまだにあそこにできないというのは頭にきちゃうというようなことをちょっと言っておるものですから、じゃそれにかわってすぐ物産会館つくってもらいたいという裏返しの声が出ておるようでございますので、そこら辺については私はちょっとわからないのですけれども、今部長の答弁の中でもって、できないようでございますということですが、ほかの駅へ行くと結構あるのです。

どういふわけでどういふ経緯かわからないのですけれども、ちょっと大都市というのですか、10万近くだとか5万以上の都市になると、そういうあれが出ていて、その地域のお菓子だとか産物のあれが出ていて、コーナー狭くてもやっているのですけれども、なぜ館山はできないのかという不思議はあるのですけれども、そこら辺の関係がどうなのかということですが、それで契約というんですか——契約じゃなくて、要綱とさっき言いましたです、駅を利用する者について。それは、大体そこにショッピングの店を出すとか、そういうことでもってやるんじゃないかというふうに思うわけです。この図面を見ていきますと、全く駅利用以外に、横断橋にしたって駅のお客を向こうへ運ぶというのが主目的になるようで、一般の客も通れるということもありますけれども、そういうふうになってくると、どうも90%駅利用の者を、金の面であえて館山の財産にしろということで、相当80%以上のものを市が負担するというようになってきているから、そういう駅の使用計画というんですか、使用要綱、そういうものをつくっても、店を出すとか、そういうものがなければ、余り内容のあるものはできないんじゃないかというふうに思われるのですけれども、そこら辺はどうかということでございます。その点について、全くそういう面で行くと、館山は今後の管理ということについては、余り——施設としては提供するけれども、管理については、館山市は利用する面がないという面では、そう館山が負担することとは必要ないんじゃないかと思われるのですけれども、そこら辺についてはどのように考えておられるのか、御説明願いたいと思います。

それから同時に、市の共有部分については、市の金を出して、市のものですから、管理から全部やるのですから、そこへ将来永劫ともに自分の建物でおきながら、そこは自分の意思によって、例えば季節的でもいいから物産の販売するとか、商店のいろんな展示をするとか、市のそういうものをやるということでもって自由に使えないのか。金も出す、管理も全部やる、そういう中で、市の行事をやっちゃいかん、販売行為やっちゃいかんというんじゃ、何のものかわからなくなっちゃうのですけれども、そこら辺は自分のものでもってありながら、そういう枠ははめ

られてしまうのかどうかということ。将来的には、そういうことは可能になるのかどうかということ、ちょっと大枠で結構ですから教えていただきたいと思います。

◎議長（石井昌治君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 物産の販売というようなことでございますが、先ほど建設部長の方からもお答えしましたように、ＪＲといたしましては、ＪＲの敷地の上にある施設の中でのそういう物販は原則として認められないと、こういうことでございます。ただ、今御質問にもございましたように、私どもといたしましては、なるべくそういう地域の物産を販売することによりまして、産業振興とかそういうような面に結びつけていきたいというような考えを持っておるわけでございます。可能性はちょっとははっきりわかりませんが、ＪＲの方と私どもの方としては交渉を続けていきたいと、このように考えております。

以上です。

◎議長（石井昌治君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） まず、維持管理との関係でございますが、総床面積で 1,927平米、内訳といたしまして自由通路の 872平米とコミュニティ施設等の 214平米、駅施設が 841平米というような区分けになっておりますが、この中で駅部分はこれは駅で管理をすると、先ほど御説明申し上げたとおりでございます。それから、その以外のものについては、観光案内所だとか、あるいは物産展示もできるスペース、あるいは多目的室というようなものがございまして、そこで市がやるのはこれは自由になる、このようなことでございます。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 3 番議員三上君。

◎3 番（三上英男君） 今、先輩議員の御意見伺っておりまして、今の段階でイエスかノーかという段階に來まして、私の発言はまことにそれ以前のもので適當ではないかと思いますが、一応意見として述べさせていただきます。

先日の駅特でも発言したのでありますが、工事費17億 7,085万、これはかけ過ぎという感じがするわけです。ましてやＪＲの負担分が1億 6,528万円、これについては市民の同意は、一部の促進協議会の意見としてはあるにしても、市民の同意という形でははっきりした形では出ていないと思います。市民の感覚としては、駅ですので、17億のうち15億やそこらを出すと、あとの1億 6,000万円ぐらいが市が出すというのが市民の感覚であるわけです。駅特での説明では、昭和48年からいろいろ期成会の設立、陳情、請願とやっていると説明があります。でも、この工事費の額、これらの負担割合、これらは市民それぞれが知っていたわけではないし、それを市民の切望という形でこういう形で持ってこられても、この段階に來てイエスというのは難しいと思うんです。あります、我々にとっては。ですから、この17億の予算に対して若干考慮する必要があるんじ

やないかと考えております。自由通路は、これは建設しなければならないことでありますので、これは当然のことですが、全体的な駅舎の建設については、もう少し機能本位、もう飾りは要らないと、機能本位にして建設費は極力安くすると、こういう形はとるべきじゃなかったかと考えております。余りにも、あれもこれも、あれもこれもとやったためにこのような金額になったとも考えられます。市民は果たしてそれを望んでいるかどうか、意見として述べさせていただきます。

それと、促進協議会の負担金、これは8年度の決算書では133万4,000円、それから9年度の予算で130万円計上されています。果たしてこの促進協議会というのはどのような活動をしてたか。活動内容、それから支出の明細、これらは知れていると思いますが、今言たってしようがありませんので、今度の12月議会までヒアリングの際にでもちょっと教えていただきたいと思います。ヒアリングまでその資料出ますかどうか、促進協議会の活動内容とか。

◎議長（石井昌治君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 促進協議会の方の予算とか、事業経過でございますが、いつでも御提出できます。

以上です。

◎3番（三上英男君） じゃ、終わります。

◎議長（石井昌治君） 6番議員鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） これ、せんだって駅舎の事業の概要について説明をいただきまして、何かずっと文書を見ていたんですが、私が過去にこの場におきまして駅舎建設——担当部長もうかわちゃっていますが、駅舎建設に関して聞いたときに、私はぜひエスカレーターをつけてほしいというような要望をしたことがあります。そのときには、たしかつけられませんというような御答弁をいただきました。これを見ていて、エレベーターもたしかあの折2機だったとか、いろいろ考えさせられまして、時代の流れにやはりこたえなきゃならなくなっただろうなというふうに率直に思っています。ところが、この事業費に関してはやっぱりJRの負担分、市の負担分、この件に関しては、JRの体質というのは相変わらず変わんないなというようなことを率直に言っています。

そこで1つ、先ほど神田議員の中で御答弁いただいていたんですが、ちょっとはっきりとしたところをもう一度お尋ねをいたしますが、この事業費の負担部分についてなんですが、県内で結構ですからJRの負担分、自治体の負担分、その負担に関してはさまざまであると、一律ではないというふうな判断でよろしいのか、お聞きしたいことが1つ。

それと、よく私どももJRの方で、交渉事なんか行く折に言われるんですが、内房線、特にこちらの南房総に向かっての部分については君津から下です。非常に赤字路線ということがいつも

言われます。この赤字ですのというふうな、ＪＲがいつも私たちに対しては言うわけなんです、ＪＲが負担をする額１億 6,528万、この額については、やっぱりここは赤字路線だからこの程度ですよというふうなことがあるのだろうか。その辺をちょっと私の方は思ってしまうわけなんです、交渉の折にそういう話が出られたのかどうなのか。どうも余りの自治体と市とＪＲとの負担額の大きさを見ますと、どうしてもこれはちょっと納得できないし、ぜひ聞いておかなきゃなんないなというふうに思うわけです。

きょうは、本当は事業費というか、補正ですので、契約はまた次回と思っていたんですが、契約の件に関してちょっと若干触れられましたので重ねてお聞きをしたいんですが、先ほど経済部長の方から御答弁がありましたように、駅舎の中での例えばＪＲ側の管理する部分、その部分以外は、当然そうなると地元自治体が管理維持するというふうなことになるんじゃないかと思うんですが、そういう考えでよろしいんですね。

それともう一つ、その中でのいろいろな――辻田議員も先ほどから何度もおっしゃっていましたが、いろんな物産の販売であるとかということも伺っていましたが、例えばその中に――市のコミュニティ施設は入っておるようですが、そこに市の側がそこにまた新たなものをつくろうとするときにそれが可能なかどうか、話し合いはしていくということでありましたけれども、その辺の見通しは実際のところどうなのか、お伺いをいたしたいと思います。

◎議長（石井昌治君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） まず、エスカレーターというふうなことで、一番初めに出了たけれども、これはエレベーターがＪＲに２機、市側に２機、自由通路が２機ということで、それから東京方面へＪＲのホームにおりるエスカレーターがつくということでございます。ですから、合計エレベーターが４機、エスカレーターが２機、こういうことになるわけでございます。

それから、負担区分でございますが、先ほど神田議員さんにもお答えしたとおり、さまざまな要因がございまして、中には信号機の通信施設だとか、あるいは電車等の支障移転というものが多寡にわたるわけでございまして、駅舎部分の建設単価を比較いたしますと、平成７年度に竣工いたしました市原市の八幡宿駅は、平米単価が４９万 5,000円、これは駅舎のみでございます。それから、現在の工事中の四街道市の物井駅が５０万 5,000円、今回館山駅の場合は４８万 8,000円、このような金額になっているところでございます。

それから、管理区分でございますが、これはＪＲが管理する駅舎部分、それを除いては設置の管理条例を制定いたしまして、これから館山市の施設については、その利用方法を設置管理条例でうたっていくと。その中に多目的ということが１つございますが、西口の方に多目的がございまして、それら今後の利用方法は検討していくということでございます。

申しわけございません。ＪＲの赤字路線で負担が少ないんかということでございますが、それ

はそういうことはございません。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 6番議員鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） そういうことはないということで、ないというのは市側のお考えでJRでは何ておっしゃるか、ちょっと私の方は今度機会があったら聞いてみたいなというふうに思うわけですが、挑発しない程度に聞いておきます。

それで、今御丁寧にエスカレーターの御答弁いただいたんですが、エスカレーターなぜ東京方面だけなのかな。これはあれですか、JRの方からと折衝の中で東京方面だけにつけるようになったのか。ここは終着駅じゃありません、下りもあります。そういった利用する人たちは、下りには行けないということなんですか。その辺がどういうふうに協議をされたのか、お伺いをしたいと思います。

それと、これはちょっと何か再三にわたってお話ししている経緯があるんですが、ひとつお考えをお聞かせ願いたいんですが、鉄道というのは、JRは今、昔の国鉄が民営化されて、JRというふうに通称呼ばれておりますが、一般の私鉄の鉄道が駅舎あるいは線路をつくる時は自力でやっているわけですね。それをJRは国鉄時代の国民の税金の上でレールを敷いてもらって駅舎をつくってもらって、それでなおかつこれは改築しようとか、線をその先延ばそうとか、ちょっとそれはないかと思いますが、そういうときには金を出さないという、私はこの体質というのは非常にずっと憤慨しておるんですが、その辺に関していかがお考えになりますでしょうか、お聞かせを願いたいと思います。

◎議長（石井昌治君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） エスカレーターでございますが、これはちょっと私東京方面と言いましたが、東京とそれから千倉方面、北側の方にエスカレーターをつくるわけでございまして、これは電車の到着時に乗客が狭いホームに集中するということから、福祉及び安全確保の観点からホーム側にエスカレーターを設置すると、これはJR側が設置するということでございます。

それから、JRと私鉄の関係でございますが、ちょっと私ではこれは答えるあれがないんじゃないかと、こんなふうに思います。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） ちょっと答えにくいでしょうから、またそれはいたし方ないなというふうに思います。

ということは、これは下りも使えるんだということの判断でよろしいわけですね。下りじゃ使えるかといったときに、下りへ行ってほかの駅がどうなんだろうかなと、これはどこでもそう

なんですけれども、田舎に行けば田舎に行くほど都会の方みたいに人がいて手伝ってもらえるとか、駅員がいない駅舎ありますよね。そういったことも含めて、今後の課題として下り方面への障害者であるとか、そういった方々への配慮ということも含めて、連携を組んでいただいて、下り方面への取り組みということを、話し合いの中でもさせていただければなというふうに思います。

というのは、鴨川とかそっちの方をぐるっと回れるわけですから、そういったところでも、この館山駅で足の悪い人やエレベーターを使った車いすで行った人たちが、そういったところでもちゃんと乗降できるのかという面の心配ですよね。その辺のケアを今後に向けてやっていていただきたいなというふうにお願いをしておきたいと思います。

以上です。

◎議長（石井昌治君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） ちょっと再度お答えしたいと思いますが、エスカレーターについては、これは上下——上り線、下り線両方に配置をするということでございます。それから、エレベーターも4機ございますんで、それは障害者のための利用ができる、高齢者、障害者が利用できる、そういう配慮はしてございます。

以上でございます。

◎議長（石井昌治君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） もう一つ出ましたんで、高齢者、障害者への配慮としまして、この機会にホームを全部つくり直すと、そして電車の出口とホームの間の格差、あれをつけて、さっと出られるようにする、そこまで配慮してございますんで、せっかくの機会ですから話しておきたいと思います。

◎議長（石井昌治君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終わります。

委員会付託の省略

◎議長（石井昌治君） お諮りいたします。

本案について委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（石井昌治君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

討 論

◎議長（石井昌治君） これより討論を行います。

討論はありませんか。

20番議員神田君。

◎20番（神田守隆君） 今回の補正について、私ちょっと同意できませんということで討論させていただきます。

市当局あるいは担当者が大変な努力をしてきたということについては十分に評価いたします。しかしながら、結果的に本来JRの責任にかかわる部分について、4億9,000万円からの市民の税金を投入すると、こういうことになったわけで、これは市民1人当たりになると約1万円というぐらいの大きな金額なものですから、これについては十分市民に説明できる内容である必要があらうかと思います。

昨日も私も議員の研修会へ行きまして、アカンタビリティーというような難しい英語を勉強いたしましたけれども、十分市民に説明のつく内容でなければならない。確かに館山の駅舎が住民の税金を投入してでも、JRの負担を市民が肩がわりしてでも1万円ぐらいの負担ならば、今後の館山市の、例えば西口の有効利用ですとか、駅周辺の新たな発展であるとか、こういう視点から見て十分それは理解のあるものだということについて、やはり十分に説明ができるということが大変大事な点だろうと思うんです。

そういう点では、残念ながら今までの市の説明の中では、十分に市民を納得させるだけのものができていないという点が大変残念な点で、そういう点で皮肉な言い方になるかもしれませんが、JRにしてやられたなど、こういうような見方も十分に市民の中には出てくるかと思うんです。そういう点で、まだ現時点ではこの工事、私は基本的には駅舎についてはやはりする必要はあるとは思っていますけれども、そういう点では、今の現状では賛成できないということで、私の反対という意見にさせていただきます。

◎議長（石井昌治君） 3番三上議員。

◎3番（三上英男君） 私もこれに対しては反対いたします。

というのは、先ほどの説明の中で、契約については特異業者の中から選ぶと。今の建設業界の技術の進歩の中で、特異業者に絞ってやるなんていう、こんなことは余り考えられないと思う。これはまさにJRにやられたと、設計から何から全部JR主導でやってしまったということで、工事費は当然数億円高いというように思っておりますので、補正予算には反対しておきます。

◎議長（石井昌治君） 他にありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終わります。

採 決

◎議長（石井昌治君） これより採決いたします。

採決は起立によって行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の皆さんの起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(石井昌治君) 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

閉 会 午前11時02分

◎議長(石井昌治君) 以上で本臨時会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第1回市議会臨時会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 会議録署名議員の指名
- 1 会期の決定
- 1 議案第53号

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会議員

館山市議会議員

